

■水屋〈稲沢市指定文化財〉 (みずや 〈いなざわししていぶんかざい〉)

愛知県稲沢市祖父江町神明津矢田塚西



2023年3月11日撮影（全16枚）

神明津には水屋（みずや）があります。水屋は大水になったときにひなんするところです。食べ物や移動のためのふねが用意され、水が引くまでの間、そこで生活をしていました。しかし、こうした水屋は豊かな家の人にはしかつくることができませんでした。今では、木曾川に高いいぼうがつくられ、人々の生活を守っています。こう水のきけんが少なくなり、土をもったり、石がきをきずいたりする家はへってきました。むかしはたくさん水屋がありましたが、今はわずかしかのこっていません。この水屋は安政4年（1857年）にたてられました。災害のときには十数人がひなん生活ができたといわれています。

参考資料

- 1) 『わたしたちのまちそぶえ』 P.46 平成8年 祖父江町教育委員会
- 2) 『わたしたちのいなざわ』 P.164 平成18年稲沢市教育委員会
- 2) 『長岡の昔ばなし 一本松の子ら』
- 3) 稲沢市ホームページ

www.city.inazawa.aichi.jp/miryoku/bunka/shishitei/1002926.html

■地泉院

(じせんいん)

愛知県稲沢市祖父江町神明津 2 3 1



2023年3月11日撮影（全21枚）

神明津の地泉院は奈良時代からつづくお寺です。安土桃山時代の関ヶ原の合戦のときには、徳川軍が地泉院に一泊し祈願したと言われている尾張徳川家ゆかりの寺でもあります。やねがわらに葵の紋（あおいのもん）があるのはそのためです。地泉院では、11月に十万人地蔵流しが行われます。90年ほど前（1931年頃）に木曾川で渡し舟がてんぷくし、その時になくなった人びとをなぐさめるためにはじまりました。

参考資料

- 1) 『わたしたちのまちそぶえ』 P.49 平成8年 祖父江町教育委員会
- 2) 地泉院ホームページ <https://jisennin.ehoh.net/#>
- 3) 『長岡の昔ばなし第二集 みよ池の里』

■白髭神社

(しらひげじんじゃ)

愛知県稲沢市祖父江町四貫宮屋敷



2023年3月11日撮影（全5枚）

四貫の白髭神社は江戸時代の初めごろにできたと言われています。「洪水の前の夜に白いひげのおじいさんが夢枕に立って、村の人にひなんするように注意した」という白髭伝説（しらひげでんせつ）は日本中にあります。このため、大きな川の近くには白髭神社が多くまつられているのです。四貫の白髭神社では、「おびしゃ」という行事があります。矢をいって、その年の作物のできを占ったり、わざわいがおきないように、健康にすごせるようにもちをまく「もちなげ」を行います。還暦（60才になった人）の人がおもちやおかしをほうのうして、そのおさがりをやく年の人がまきます。子どもも大人も参加する行事です。

参考資料

1) 『祖父江町史』 P.69 P.72

■史跡 とどめき川 渡船場跡

(しせき とどめきが とせんじょうあと)

愛知県稲沢市祖父江町中牧堤外川（給付稲沢線沿い）



2023年3月11日撮影（全24枚）

「とどめき川」というのは旧佐屋川のことです。中牧村（今の祖父江町中牧）に流れていた木曾川のしりゅうのことです。川の流れる音が「とどろとどろしい」（はげしい流れの音）ため「とどめき川」という名前がついたと言われています。いろいろな説があって、「とどろき川」ともいわれています。「中牧村にあった木曾川のしりゅうは、中牧で分かれて南に流れ、海西郡赤目村でまた大きな木曾川とまじる、その間をすべてとどろき川という。」と書かれています。むかしは、木曾川や佐屋川には橋がなく、渡し舟でわたりました。とどめき川の渡し舟のあととして祖父江町が昭和50年9月19日にこの場所をしていしました。

参考資料

1) 国立国家図書館デジタルコレクション 『尾張名所図会 後編巻2 中島郡』 P.46

<https://dl.ndl.go.jp/pid/764888/1/46>

2) 『祖父江町史』 P.473

3) 『長岡の昔ばなし 一本松の子ら』

4) 『佐屋川日光川沿道水工図』

http://e-library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/detail?tilcod=0000000006-00001977

■旧佐屋川野田渡船場跡 (きゅうさやがわのだとせんじょうあと)

愛知県稲沢市祖父江町野田佐屋川



2023年3月11日撮影 (全15枚)

むかしは、木曾川や佐屋川には橋がなく、渡し舟でわたりました。野田（牧川地区）には「野田の渡し」のあとがあります。

佐屋川は、はばが160mもある大きな川でしたが、1900年（明治33年）にせき止められ、小さな川になりました。今でもむかしのていぼうが牧川地区の島本、野田、中牧、長岡地区の西鵜之本、四貫などにのこっています。

この場所は、旧佐屋川の野田渡船場の跡として祖父江町が昭和50年3月28日に指定しました。

野田渡船場は人の行き来が多かったためキリシタン禁制の「高札」も立っていたと書かれています。

参考資料

- 1) 『わたしたちのまちそぶえ』 P.47 平成8年 祖父江町教育委員会
- 2) 『祖父江町史』 P.222, P.487
- 3) 『長岡の昔ばなし 一本松の子ら』
- 4) 『長岡の昔ばなし第二集 みよ池の里』
- 5) 『八開村史 通史編』 P.215
- 6) 木曾川下流河川事務所「KISSO VOL.30 祖父江町特集号」
<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/KISSO/kobore30.html>

■愛知県営西中野渡船場

(あいちけんえいにしなかのとせんじょう)

愛知県一宮市西中野番外



2023年3月11日撮影 (全15枚)

中野の渡し(なかののわたし)は、愛知県一宮市西中野(旧尾西市西中野)と岐阜県羽島市をむすぶ木曾川の渡し舟(わたしぶね)です。正式には、「愛知県営西中野渡船場」(あいちけんえいにしなかのとせんじょう)といいます。令和5年の今でもうんこうしている渡し舟(わたしぶね)です。

参考資料

- 1) 拾町野村の佐屋川舟渡し場 (天保村絵図) 祖父江町史 P485
- 2) 羽島市観光協会

<https://hashimakanko.jp/store/nakanonowatasi/>